

Vol.220



かけはし

病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

理念

すべては患者様と
地域社会のために



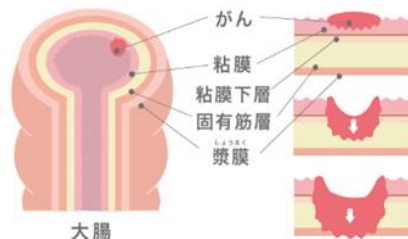
発行責任者 病院長 松本 健



大腸がんとはどんな病気？

院長 外科部長
中村 吉 貴

大腸がんは、**大腸（結腸・直腸・肛門）**に発生するがんです。大腸の粘膜に発生した大腸がんは次第に大腸の壁に深く侵入し、やがて大腸の壁の外まで広がり腹腔内（ふくくうない）に散らばったりします。（**腹膜（ふくまく）播種（はしゅ）**）また、大腸の壁の中のリンパ液の流れに乗ってリンパ節に転移したり（**リンパ行性転移**）、血液の流れに乗って肝臓、肺など別の臓器に転移したりします。（**血行性転移**）



大腸

出典：医療事典MEDLEY
<https://medley.life/diseases/54b69fbd6ef4587502f19991/details/diagnosis/stages/#anchor1>（閲覧日：2021年10月20日）

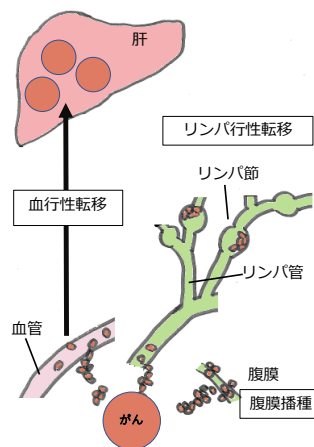
大腸がんの症状は？

大腸がんは早期の段階では自覚症状はほとんどなく、進行すると貧血や、便秘、下痢、おなかが張るなどの症状が、さらに進行すると腸閉塞となり、便が出なくなり、腹痛、嘔吐などの症状が出ます。**血便、下血**などの症状がでた場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

大腸がんの治療って？

大腸がんの治療には**内視鏡治療、手術、薬物療法、放射線治療**などがあります。

大腸がんは深達度、リンパ節転移、遠隔転移の有無によって病期（ステージ）が決まり、早期から進行につれて0期からIV期までに分けられます。がんの進み具合（病期）、全身状態、年齢などを考慮して治療法が選択されます。0期～III期では、主にがんを切除できるかどうかを判断し、切除できる場合には内視鏡治療または手術を行います。IV期の場合は、治療方法を総合的に判断します。



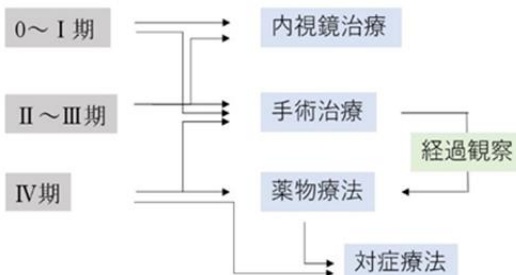
検診が大事！

男女ともに40歳以上は年1回、大腸がん検診を受けましょう。検診の内容は問診と便潜血です。便潜血は微量で目に見えません。がんからの出血は間欠的であるため、2日分の便を採取します。検診の結果が「要精検」となった場合は必ず精密検査（**大腸内視鏡検査**）を受けましょう。

がんを予防するために

がんを予防するための生活習慣のポイントは**禁煙、摂酒、適正体重、食事の見直し、運動**です。これら5つの生活習慣を実践することでがんのリスクはほぼ半減します。生活習慣に留意し、早期発見、早期治療に努めることがとても大切です。

大腸がんの治療



～お問い合わせ先～

地域医療連携室：078-652-8271

078-652-8275 (FAX)